

令和4年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 記録

令和4年7月27日(水) 10:00~11:35
 県庁9階 第一会議室

＜審議会委員＞

田端 健人 委員長, 熊谷 龍一 副委員長, 川嶋 輝彦 委員, 高橋 真木子 委員, 高橋 和之委員,
 伊藤 宣子 委員, 高橋 千春 委員, 本木 一昭 委員, 荒井 雅行 委員, 佐々木 克敬 委員,
 勅使瓦 理恵 委員, 徳能 順子 委員, 菅井 理恵 委員
 (欠席: 坪田 益美 委員, 浅野 直美 委員, 志小田 美弘 委員)

＜県教育委員会＞

伊東 昭代 教育長, 遠藤 浩 副教育長, 杭全浩明 教育企画室総括総括室長補佐,
 佐々木 利佳子 義務教育課長, 遠藤 秀樹 高校教育課長
 (欠席: 嘉藤 俊雄 副教育長)

事務局	(資料の確認) (公開の確認)
	(開会)
事務局	(委嘱状・辞令交付) (委員の紹介)
伊東教育長	(教育長あいさつ)
事務局	(県教育庁関係出席者紹介) (本会議の概要説明)
事務局	(委員長・副委員長選出) (委員長・副委員長あいさつ)
委員長	委員長の任を賜りました、宮城教育大学の田端です。 県立高等学校の入学者選抜試験は、受験者を含め、御家族等々の人生に関わる大変重要な試験である。それをめぐる本審議会は非常に重要な位置付けにあると認識している。 この入学者選抜試験が、公正かつ円滑に実施できるよう、この審議会での議論をしっかりとやっていくよう議事進行に努めたいと思う。 どうぞよろしくお願いいたします。
副委員長	副委員長を務めさせていただきます東北大学の熊谷です。よろしくお願いいたします。 今年度からの委員ということで、まだまだ経験不足な面が多々あるかと思う。是非皆様の御指導、御協力いただきながらやっていければと思うのでよろしくお願いいたします。 入試というのは非常に教育の中で大事な位置付けを持っていると思う。実際に受験をする受験生の方々、そして親御さんはもちろんのこと、宮城県そして日本の教育をこれから支えていく大事な一歩になるものだと考えている。これからも、よりよい入試となるよう、是非一緒に考えていければと思っているのでどうかよろしくお願いいたします。
	(委員長 司会進行開始)
委員長	それでは次第に従って進めて参りたいと思う。初めに報告となる。 まず報告1「令和4年度、宮城県公立高等学校入学者選抜結果について」、事務局から報告をお願いする。 なお、質疑については、その都度時間を取る。 では、事務局説明願う。

事務局	(事務局より説明)
委員長	報告感謝する。それでは報告1について、質問願う。
委員長	児童生徒の人数がデータで若干少ないが、全日制課程の充足率が若干1.2ポイント上がったのは、どのように捉えているか。
高校教育課長	資料1ページを御覧願う。 ①総括の上段の令和4年度の卒業予定者数が、前年度より500人ほど増えているという状況である。あとは、令和3年度の中学校卒業生数が非常に少なかった。ここ数年で卒業生数が一番少ないという状況である。そのために、充足率が86.2%になった。今年度については卒業予定者数が増えたということに伴い、若干充足率が増えた。 あわせて、募集定員のところも、前年度と比較して全日制で320名ほど募集定員を減じていたことも働いていると推測される。
委員長	説明感謝する。よくわかりました。他いかがか。
伊藤委員	資料の3ページ。学科別出願倍率で、5番の水産学科、これが0.49。この数字を見て、何か原因があるのかお尋ねしたい。
高校教育課長	なかなか学科等にどういう要因があって倍率が減じられているかというところまでの分析は難しい。 募集人数が少ないところで倍率を出すと極端な数字の変動が生まれるのではないかと考える。 昨年度、産業教育審議会において、産業教育のあり方等について御審議をいただき、最終的には今年度5月に答申をいただいた。その中で専門高校専門学科の魅力をどのように発信していけばよいか色々とお意見をいただいた。専門高校専門学科においては、課題研究等を中心にしながら、これからの6次産業化等々を見据えながら、特色ある教育を行っているが、なかなか中学生あるいは保護者の方々に御理解いただけてないとの御意見もあったので、そういった御意見等も踏まえながら、今後専門学科専門高校の魅力をより発信していけるような施策を進めて倍率の向上等にも努めて参りたいと思っている。
委員長	他いかがか。 では次に、報告2の「令和5年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」、事務局から報告願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	感謝する。報告について、質問があればお願いします。
伊藤委員	求める生徒像選抜方法一覧の冊子の内容について、部活動ガイドラインが出て、中学校現場では相当部活動については規制をしている。それから、コロナ社会となつてから、部活動も実績を残すことがなかなか難しい。そういう状況で求める生徒像の中に、部活動のことが多く書かれているが、この辺のところはどうか。
高校教育課長	求める生徒像の中には、「部活動においてすぐれた能力等を持つ」や「意欲的に取り組んでいる」などの記載があり、日常的に中学校において部活動に懸命に取り組んでいる姿勢を求める記載もある。御指摘の通り、昨今コロナウイルスの関係により部活動がなかなか活動できないこともあり、実際の選抜の場においては、そういった実績云々ということだけを以て選抜することのないように、国からの通知もあるので、県教育委員会としても、各学校にしっかりと周知をしている。そういった点を御理解願う。
委員長	他にいかがか。 それでは、次に報告3の「宮城県公立、高等学校入学者選抜に関する質問紙調査について」があるが、審議の3に合わせて報告とする。 報告については以上で終了とする。 では次第に沿って進める。 次に、諮問となりますが事務局から説明願う。
事務局	諮問文を教育長から委員長にお渡しするので、委員長、教育長は御移動願う。 委員の皆様は資料1、諮問審議関係資料の1ページの諮問文を御覧願う。

伊東教育長	(諮問)「令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」 「令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」
事務局	(事務局より、諮問の読み上げ確認) (別紙1)令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について (別紙2)令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について
委員長	感謝する。 それでは、審議に移る前にここで休憩をとる。休憩時間は5分とする。10時45分ごろに再開する。
	(休憩 5分)
委員長	再開する。次に審議に移る。 まず審議1の「令和6年度、宮城県公立高等学校入学者選抜方針について」、事務局から説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	感謝する。意見があればお願いします。
佐々木委員	これはおそらく、教育企画室の話になるかもしれないが、普通科の方で特色あるコースの設定というものが文部科学省から出ている。それに応じて例えば入試制度に関しても、学科ごとに募集定員を変えたりなどというようなことがあるのかどうか、スケジュール感等、もしわかっていればお示し願う。 普通科の校長先生方がどのようなスケジュール感で学校の特色をつくっていかばいいか、まだ暗中模索中である。また入試とどう結びつくかということもあわせて情報があれば教えて欲しい。
高校教育課長	普通科の特色化、および募集定員についてということか。
佐々木委員	例えば探究とか、地域とかというようなことが今回文部科学省から例示されて、普通科でも特色的なコースをつくることが出たと思うが、それに応じて、例えば、入試の定員を割るようなコースごとの募集まで踏み込むのかどうか。あるいは学科を新しく作る時のスケジュール感があるかどうかを教えて欲しい。
高校教育課長	まず、普通科改革について、学校教育法の施行規則が改正され、それができるといような形になっているもので、それをいつまでにやらなければならないというものではないと理解している。 学科を仮に、普通科の大きい複数科のくくりの中で、探究的な学科とした場合に、普通科の学科改編という考え方に基づいて実施することになると思うので、例えば募集定員を変更するかどうかは、今のところは想定していない状況である。 なお、今後各学校から要望が上がってくると思うので、個別に学校の要望等に応じながら、細かく見ていく。また、教育企画室の所管にはなるが、将来構想審議会等においてもいろいろ御意見等があると思うので、それも踏まえながら検討していく。
佐々木委員	普通科の中でも、例えば探究科と地域密着型と、定員を割り振った場合なども当然想定できると思うので、シミュレーションの方もお願いします。
委員長	他いかがか。
伊藤委員	追試験について、令和4年度の追試の受験者数は、宮城県はどのくらいあったのか。令和4年度の追試の実態を教えて欲しい。
委員長	事務局いかがか。
事務局	令和4年度の入学選抜の追試験の実施状況は、追試験の申請者は110名ほどいて、全日制で107名、定時制で3名の申請があった。その中でコロナウイルス関係は100名であった。
高校教育課長	併せて若干補足する。 新型コロナウイルスの対応は、前回の審議会でも御報告したように、例えば、感染してしまった受験生あるいは濃厚接触者に特定された受験生については、本試験は受けられないとした上で、追試験に申請をしていただくこととした。 ただし、追試験も受けられないという可能性もあるので、追試験が受けられない場合には、第二次募集で行う日に合わせて実施する。それでも残念ながらなかなか回復しない場合は、最終的には書類審査で選抜し、結果3段階で、受験機会の確保をする形で実施した。

	来年度の入試については、今後、感染の状況等を踏まえながら、検討する。
委員長	感謝する。 新型コロナウイルス感染症でなかなか万全とまではいかないが、二重三重のチャンスを確認しているということがよくわかった。他いかがか。
伊藤委員	全国募集選抜についてだが、第一次選抜募集で必要に応じて実施する面接、実技、作文検査結果とあるが、全国選抜選抜は、作文ではなく、面接に力点を置くということか。
委員長	事務局いかがか。
事務局	全国募集選抜に関しては、やはり面接が大事と捉えている。出願した理由については、第1に聞く必要があると考えている。受験生がどういう考えでその志望校を選んできたのかについては慎重に話を聞いた上で判断するという意味で、面接を重要とした。
伊藤委員	コロナ禍で、面接ということが可能なのか。
事務局	確かに、現状で面接を実施することについては、十分注意をしなければいけないと考えている。十分距離を取った上で、感染対策を施して実施すれば、面接についても問題ないと捉えている。
委員長	感謝する。他いかがか。 よろしければ、次に、「令和6年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」、事務局から補足説明願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	本当に、タイトな日程で、前後1日どうずらすかぐらいの選択の余地の少ないスケジュールである。後に見る質問紙調査等々でも、1日をどうするというような議論が受験生、あるいは、中学校高等学校の方でも、比較的評価をされているので、それぞれの立場から、この日程案について、御審議願う。 ご意見いかがか。
伊藤委員	令和6年度入試のカレンダーの中で、高等学校の卒業式がわかるが、公立中学校の卒業式はどの日になる予定か。
義務教育課長	中学校の卒業式の設定については、学校ごとが決めているので、平日、金曜日にする学校もあれば、土曜日等に設定するところもあり、一斉実施日がどの日になるかは申し上げられない。通例としては、3月1日が高校の卒業式であるならば、中学校はその次の週例えば令和6年度のカレンダーであるならば、7、8、9あたりのところになるかと思う。学校によって違うし、また現在のコロナ禍で、一概に何日というようには申し上げられない。
伊藤委員	本当に先の見えないコロナ状況の中での入試制度である。 お願いしたいのは、第一次合格発表、これを金曜日ではない日にして欲しいということである。私学の立場からということではなくて、宮城県の子供たち、そして、保護者の皆さん方が十分に自分の人生を考察できる時間が欲しいということである。金曜日に合格発表になってしまうとなかなかその時間が取れない。不合格になってしまった、どうしよう、というようなところで、木曜日にしていただいた方が良く思う。 先ほど、追試を受けた受験生の人数を伺ったのは、現在の10代、それから10代未満の感染者数が増えているところでは、追試験を受ける受験生の数が増えていくのかもしれない。今後のコロナ禍の状況が今年度入試でよくわからない状況である。 令和6年度は、もっとわからない。そう考えると金曜日の合格発表は避けたいと思う。先ほど、委員長、副委員長のあいさつからもうかがえる「人生をかけた」入試と考えると、自分の人生を失敗したら、そこの立ち直り方に時間を欲しいのではないかと思う。 ちなみに、平成25年度から、令和5年度まで、金曜日になったことはない。宮城県の入試制度を考えると、この最後の日にちを大切にしようという証ではないか。そこのところを御検証いただきたい。
委員長	建設的な御意見感謝する。事務局としてはいかがか。

高校教育課長	<p>第一次募集で残念ながら、合格達成できなかった生徒がしっかりとその後のことについて考える時間をというところは重要であろうと考えている。</p> <p>その点も踏まえて、先ほど事務局から補足説明した通り、平日3日間の第二次募集の出願期間については何とか確保するよう工夫をさせていただいているところである。</p> <p>一応事務局側の見解として御理解いただければと思う。本日結論を出すことはなかなか難しいと思うので、いろいろな立場からの御意見等も頂戴できればと思う。</p>
委員長	<p>今の金曜日以外を模索することも、検討の一つとして、受けとめさせていただく。では他、ご意見いかがか。その他はよろしいか。</p> <p>(特に意見なし)</p> <p>では、意見がないので諮問案についての審議は以上とします。引き続き検討よろしく願います。</p> <p>では、次に、審議3、「宮城県立高等学校入学者選抜に関する質問紙及び専門委員について」、事務局から説明願う。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>まずは、質問紙調査の結果、集計結果の速報ということであった。</p> <p>中学校、それから高等学校の先生方においては、忙しい学期始めに、調査に御協力いただき、そしてまた抽出の大将となった生徒と保護者の皆様に御協力をいただいたことに感謝申し上げたい。</p> <p>この質問紙調査につきまして、委員の皆様から、忌憚のない御意見を頂戴したい。なお、詳細分析については、専門委員会で行いたいと思うが、それに先立って委員の皆様のご意見を頂戴した。いかがか。</p>
佐々木委員	<p>おそらく高校側の方の負担軽減というところが課題だとあったが、やはり1月下旬2月の前期選抜がなくなったところは非常にありがたいと思っているが、実際に3月に関しては、ほとんど入試の関係で、在校生は出校できない日が続く。</p> <p>また、コロナ禍であるため、非常に窮屈な日程になっており、大学入試の生徒に関して、あるいは、次の学年に送り出すための授業日数の確保というところでもかなりきつい状況になっている。</p> <p>その辺り、他の都道府県がどのような工夫されて日数が短くなってるかもあわせて、今回いろいろ検討していただきたい。</p> <p>ちなみに、他の都道府県では、入試問題に工夫して、マークシート方式を一部取り入れたり、あるいは自動採点システムで採点をして、かなり入試事務の軽減をしている話も伺っているので、その辺りも検討していただきたい。</p>
委員長	<p>今のご指摘の点も検討課題とさせていただく。他いかがか。</p>
委員長	<p>生徒と保護者の回答率が36.6%、25.5%ということであまり高くはないものの、3,000名、あるいは2,000名という、十分な人数が得られてるのかなと思う。大体3,000名、2,000名は、ほぼ均等にすくい上げられたのではないかということ専門委員会で御検討願う。</p> <p>他いかがか。</p>
委員長	<p>特になければ、専門委員会の審議、検討に委ねたいと思う。</p> <p>では、専門委員会の設置につきまして、いかがか。御異議がなければ、案の通りに設置をしたいと思う。</p> <p>新入試制度の一層の定着に向けた改革については十分な検討が必要である。専門委員会の役割が非常に重要になる。</p> <p>本委員会から専門委員に選ばれている委員の皆様においては、熊谷副委員長をはじめ、4人の皆さん、専門委員会の委員としてよろしく願います。</p> <p>その他、何かないか。事務局からいかがか。</p>
事務局	(事務局より全国募集に関する進捗状況説明)
委員長	<p>感謝する。</p> <p>全国募集選抜に関する説明について、御質問等があれば願います。いかがか。</p> <p>南三陸高校、それから中新田高校等も、31ページのその魅力化に向けた活動の概要を拝見するに、大変努力をしているように思う。それぞれ特色ある魅力が打ち</p>

	<p>出されているのではないかと思います。</p> <p>ぜひ、予定する募集人数に応募があることを願っている。</p>
高橋（千）委員	<p>県立高校の全国募集に関しては、先日、岩手県の沼宮内高校の先生方と沼宮内町の教育長が、本校においでになり、特にホッケー部の子供たちの、沼宮内高校への進学について情報提供をいただいた。ホッケー部は設置校数が少ないので、該当校をピンポイントで回って、学校生活を直に伝えられる。中学校側はそれを子供たちや保護者に伝えることができることから、アナウンスの方法はリーフレットやオープンキャンパス以外にも必要と思った。</p> <p>特に中新田高校はカヌー部があり、中学校側に部活動がなかったとしても、管理を行っている団体等のある自治体に周知するという方法もあるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>広報、また活路についての御意見に感謝する。他いかがか。</p> <p>中新田高校はロードバイクなどもスポーツの企画運営のようなことにも力を入れるようで、これも一つの可能性かなと思う。</p> <p>他いかがか。</p>
伊藤委員	<p>実施スケジュール、32ページに令和4年、もう6月、7月ぐらいから、学校説明会、オープンキャンパス始まっている。この辺のところの生徒たち、地域の、あるいは全国の関心はいかがか。</p>
委員長	<p>事務局、何か情報あれば、いかがか。</p>
事務局	<p>地域・教育魅力化プラットフォームという一般財団法人があり、その「地域みらい留学」を活用して、広報活動に励んでいる。合同学校説明会が、すでに6月、7月と2回オンラインで実施され、中新田高校と南三陸高校だけではなく全国で、全国募集を実施する学校いくつかに参加して行っている。</p> <p>参加者も年々増加していて、今回の6月7月の学校説明会でも、何組かの受験生及び保護者が参加していた。それをきっかけにして、個別の学校説明や相談会にも、具体的には、関東方面や福島から、何組か相談という形で申し込んでいる。オープンキャンパスの方も申し込みが入っており、例えば、南三陸高校では、仙台から南三陸までの旅費を地域からバックアップしていただき、なるべく生徒が来やすいように環境を整えていただいております。反応が出ていると感じている。</p> <p>今後もさらに、周知広報に関しては力を入れ、生徒が希望するように努める。</p>
委員長	<p>他いかがか。</p> <p>南三陸高校も中新田高校も、国際性というところにも力を入れ、南三陸高校は台湾との繋がり、中新田高校は、欧州からコーチを招聘する予定もあり、いろいろところで努力をしているように思う。</p> <p>あと住まいの確保は、どのような進捗状況か。情報があれば説明願う。</p>
事務局	<p>両校とも町の方の御協力いただき、この募集人数も寮の部屋の確保した数値に基づいて人数設定している。</p> <p>こちらは、少なくとも4月までには入居できる状況で整備を進めている。金額設定等は、まだこれからであり、住みやすい環境を整え、安全、安心の確保に、両町とも努めている。</p>
委員長	<p>地域との連携もしっかりできていると思う。</p> <p>他いかがか。なければ、事務局、続けて説明願う。</p>
事務局	<p>(次回の予定について説明)</p>
委員長	<p>感謝する。</p> <p>それでは次回の審議会は現段階では11月下旬、専門委員会は別に定めるということで事務局に調整をお願いします。</p> <p>本日の審議はこれまでとし進行を事務局にお返す。</p>
事務局	<p>(閉会)</p>